

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第143号

## ななえ古写真物語 VOL. 143

### 大沼の旅

紫水荘ふたび  
昭和40年中頃  
大沼国定公園内



串田孫一。不勉強で、この人物の名を知ったのは、つい最近になる。哲学者で随筆家。山岳部だった彼は、登山を通じて、自然の風物や人生の愛や幸福について、やわらかくも平易な文章で綴っている。

1962年（昭和37年）12月に刊行された『北海道の旅』という本に、七飯町のことも載っていると教えられ、斜め読みした。読み進めると、同年5月に、北海道各地を旅行した時の記録で、七飯町は旅の終盤に登場していた。

「大沼の畔の、部屋の窓からいつも駒ヶ岳の見えるこの紫水荘の居心地がよいので、ふた晩泊ることにしました（後略）。」の文章を読み思い浮かんだのが、かつてピチャリ96号で紹介した湖から撮影した紫水荘（96号ではヒュッテとして紹介している）と今回、上に紹介した写真である。

串田さんの文章には鳥や植物、昆虫の名前が多く登場する。しかも、私がふだん扱う剥製や標本のように、動かないモノとしてではなく、それらが季節の中で生きている姿を、诗情あふれる言葉で伝えてくれる。そのため、彼が生きた時代の情景が、より深いものになり、歴史を記録する立場の私も学ぶ所が多い。

例えば、「大沼の上の朝靄と、それが晴れて行く時の朝の涼しい静かな大気は、カッコウやツツドリをひびかせ、もう夏を想わせるものがありました（後略）。」などは、まさに大沼の5月の空気そのものが描かれている。地元の人にしてみたら、ありふれた景色なのかもしれないが、改めて文字で読むと、なんと贅沢な時間なのだろうと思う。

大沼で過ごした串田さんは、紫水荘で管理人から駒ヶ岳の爆発の話の聞いたり（昭和4年の大噴火か？）、壁に登ったヤゴがトンボに羽化したたりするのを観察したりする。散策では、公園化がすすんでいる場所より、少し離れた草が生い茂っている道を好み、今はない鹿園を訪れたり、今も名物として売られている大沼だんごを食べるなど、現在よりも、ゆったりした時間を串田さんは過ごしたのだろうと思った。私が写真でしか見たことのない紫水荘の様子を今に伝えてくれる串田さんの文章に、あらためて文学のもつ力の凄さを知った。

「明日の朝また早くカイツブリが私の目をさまさせてくれるでしょう……。」

未だ、この素晴らしい本を読破していない自分が、残念でならない。

## 16日

写真の石碑が建つのは無沢峠。防災道路というわかりやすいかも知れませんが、峠下からじゅんさい沼へと抜ける峠の上に、静かに建っている石碑です。明治14年に明治天皇が北海道行幸の折りに、この場所で休憩を取られ、駒ヶ岳や大沼の景勝を堪能した場所を記念し、昭和11年に建立されました。現在建っている場所は、発見後に移設されたものですが、こういった文化財を後世に残していくため、歴史館では、定期的な草刈や柵の整備を行っています。お近くを通ることがありましたら、ぜひご覧になってみて下さい。



## 26日

今月のジュニア探検クラブは、町民文化祭に参加しました。鋳物のせんべい焼き器を使って焼くせんべいは、タネを作るところから始め、炭火の前でひっくり返しながらじっと待ち、焼きたてをほおばりました。昔の遊び体験では、かるたとりと割りばし鉄砲作りなどをしました。かるたで町内の史跡や名所を学び、小刀を使って割り箸を削って作る鉄砲は、時間もかかり、苦戦していましたが、的に当たって友だちと喜ぶ笑顔が多く見られました。



## 狛犬を訪ねて

全国には「狛犬マニア」なる人たちがいるそうで、神社の参道で愛嬌のあるその風貌を見つけると、思わずじっくりと観察をしてしまいます。平安時代にはすでにあつたそうで、高麗（こま）から来た狛犬は、最初は宮中の調度品として置かれ、その後屋内を飛び出し、サイズも大きく変化していったそうです。右の写真は上から大沼、中段は森町濁川、下段は北斗市のそれぞれの神社に鎮座する狛犬です。意外と近場でも愛くるしい狛犬に出会うことができます。



## 12月の予定

1	日
2	月
3	火
4	水 夜の博物館
5	木
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火
11	水
12	木
13	金
14	土
15	日
16	月
17	火
18	水
19	木
20	金 ピチャリ144号発行予定
21	土
22	日
23	月
24	火
25	水
26	木
27	金
28	土 ジュニア探検クラブ
29	日
30	月
31	火 年末年始休館日

12月31日～1月5日は休館です。

### ロビー写真

年に2回、ロビー写真の入替を行っています。町内で撮影した風景が印象に残ると幸いです。



### 編集後記 ~tawagoto~

当館の駐車場からは、標高779mほどの七飯岳が見える。決して険しい山ではないので、気軽に登山することもでき（ヒグマに注意だが）、個人的に昆虫採集をしたりする山なのだが、ついこの間、山頂が白く染まりつつも、赤や黄色の紅葉がまだ裾野に残る景色になった。冬は秋の上に積もるものなのだなど、しみじみとしたが、次の日には、鮮やかだった葉が風に吹かれ、彩りが失われた。いよいよ冬が本格的になりそうだ。（やまだひさし）

# Pichari

～ピチャリ～

第143号

令和元年11月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp